



ごあいさつ

山の都ふれあいコンサート実行委員長 中澤 一浩

ようこそ 第41回『山の都ふれあいコンサート』へおいでいただきました。

「一歩前へ」をテーマとして掲げさせていただいた今年の『山の都ふれあいコンサート』は、今まで我々が経験したことの無い新型コロナウイルスによる災害を皆で乗り越えようという気概の意味が込められています。また一方で、1981年から始まり昨年で40回を数えるまでに成長した『山の都ふれあいコンサート』が、今年は41回目として未来に向け「新たな一歩」を踏み出すのだという情熱も込められているのです。

私は、前回の40回のごあいさつの中で「これまで40回切れ目なく歩んできたのです。コロナだからとここで歩みを止めるわけにはいきません。むしろ、新たな歩みに繋げて行くために今回の開催があると考えます。40回開催という歴史は「ふれコン」にとって資産であり宝物です。その宝物を礎にこれからも躊躇なく前に進んでいきます。障害のある方も健常者の方もこれまで同様、いやこれまで以上に手を携えて。」と書かせていただきました。そしてその言葉通り40年目41回目の今年も、残念ながら無観客ではありますが、これまで実行委員会が一生懸命考え議論してきた「今この状況の中でできる最高のパフォーマンスは何か」の答えをかたちにし、基本理念は決してブレることなく、心を込めてつくり上げ皆様に披露させていただきます。

結びに、毎年ご支援ご協力をいただいているYCC県民文化ホールの皆様をはじめ応援をいただいている多くの皆様にお礼を申し上げますと共に、今後とも新たな展開に際しましても変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げご挨拶とさせていただきます。

YCC県民文化ホール支配人 村井 豊

本日は『山の都ふれあいコンサート』にご参加いただき厚く御礼申し上げます。

山の都ふれあいコンサートは、1981年の「国際障害者年」をきっかけに生まれました。41回目の今年も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年に続きオンライン配信での開催となりました。こうして画面を通じて開催できることは実行委員会の皆様方の熱意と創意工夫のおかげと深く感謝申し上げます。今後もさらに回を重ね、より多くの皆様にふれあっていただくことを願ってやみません。

今年はホールでの無観客ライブ演奏や事前にお送りいただいたビデオでの構成となります。参加して下さるメンバーの皆さんの力強い演奏やそこから生まれる感動に期待が膨らみます。こうして山の都ふれあいコンサートが、若い参加者たちの力で山梨に新しい文化を創造していくことを期待しています。

今回も宙先（そらさき）案内人の高橋真理子さんに特別ゲストとしてご参加いただき、「すべての人に星空を」というメッセージをつむぎます。

どうか最後までご参加いただき、多くの人々の輪が広がっていくことを期待しています。